

対象者：研修者 10 名、研修者の所属する施設の管理者

調査方法：質問紙による調査。質問用紙は後日郵送させていただきます。

## XI. 事故発生時の対応

事故が起きないように充分留意して実施し、万が一事故が発生した場合は、プリセプターに報告する。プリセプターは、必要に応じて管理者へ報告すると共に、当事務局にも連絡をする。

## XII. その他

### 1) 研修初日の集合時間と場所

実習初日 9:00AM 鶴巻温泉病院 事務局前

集合してからロッカー室へご案内します。

### 2) 欠席などの連絡：看護部

### 3) 服装、靴：ご自分の施設でご使用のもので結構です。(基本的に白)

### 4) 名札：研修当日配布いたします。

### 5) 研修初日までに、健康診断書、看護師免許の写し、ご印鑑をご用意ください。

鶴巻温泉病院 研修担当者

副院長兼看護部長 守山 伸子

教育担当科長 桑原 勝代

\*

東京都立保健科学大学 看護学科 高齢者看護学

勝野とわ子

横井 郁子

堀内 園子

\*

〒116-8551 東京都荒川区東尾久 7-2-10

東京都立保健科学大学

電話 03-3819-1211

2003.11.25 作成

# 高齢者スキルアップ実地研修の実施と評価（東京）

## I. はじめに

本事業は、高齢者ケアに従事するサービス提供者の質的向上をめざし、(1) 高齢者ケア提供者の教育と経験の実態を明らかにし、(2) 高齢者ケア提供者の教育訓練支援モデルを開発してきた。

今回は看護職を対象に、大学病院などの特定機能病院、地域支援病院の教育的機能を活用した実地研修プログラムを開発し実施することとなった。

## II. 研修のねらい

実地研修を通して看護職の専門的スキルを習得することによって、高齢者ケアの質的向上をめざす。

## III. 研修目標

1. 高齢者の症状観察・アセスメント能力を身につける。
2. 高齢者に多い医療処置に関する看護職としての関わり方を身につける。
3. ターミナルケアへの対応を身につける。
4. リスクマネジメントの考え方を習得し、その実際を身につける。
5. 高齢者の人権の尊重と倫理的対応の実際を学ぶ。

## IV. 研修場所

鶴巻温泉病院

神奈川県秦野市鶴巻北 1-16-1

担当者：副院長兼看護部長 守山伸子、教育担当科長 桑原勝代

TEL 0463 (78) 1311 FAX 0463 (78) 5955

## V. 研修期間

2つのクールに分かれて実施。

第1クール：平成15年12月9日～12月11日

第2クール：平成15年12月15日～12月17日

## VI. 方法

- 1) 研修者の選抜・・・事前に高齢者医療・保健・福祉施設 686 箇所に研修案内、申込書を郵送し、申し込み希望者を募集した。  
ファックスにて申し込み希望のあった方の中から、その方の研修目標、意義を読み、

本研修目標（1～5）に適していると思われる方を研修施設の教育課長、分担研究者側のスタッフで選抜した。

- 2) 研修プログラムのタイムテーブルは資料1の通りである
- 3) 研修対象者：東京、神奈川関東圏内の高齢者医療・保健福祉施設で働く看護師5名
- 4) プリセプターと共に、自己の希望する内容を達成できるよう、高齢者の看護ケアや医療処置を体験、実施する。体験できないものは見学するか、または説明を受ける。
- 5) 研修者の役割
  - ① プリセプターの助言を受けながら、学習の機会を積極的に活用することに努める。
  - ② 研修中にうまくいったこと、困ったこと、負担に思ったことなどはプリセプターに相談し、指導や助言を受ける。
  - ③ 看護ケアや医療処置を実施する場合は、プリセプター等と十分に話し合い、指導を受け実施する。
  - ④ プリセプターの第一線のケア技術を見学し、指導を受ける。  
(ア) 必要に応じて関連知識の自己学習をしておく。

#### 6) プリセプターの役割

- (1)調整役：研修者が研修目標を達成できるよう、研修者の学習ニーズに基づき、学習環境を整える。また、研修者と患者、家族との仲介をし、研修に関する倫理的配慮を行う。
- (2)ロールモデル：研修者がケアスキルアップするため、専門的かつ最近の技術を示し、必要に応じて説明する。
- (3)指導者：定期的に打ち合わせを行い、研修の進捗状況を把握し、研修目標が達成できるよう指導・助言する。看護ケアや医療処置を実施させる場合は十分に話し合い、指導のもとに実施させる。

プリセプターは、いずれも病棟の看護主任というポストにあり、実務教育担当者の講習会に参加している。

#### 7) 研修者はレポートを提出

- テーマ
- ①自分の研修目的・内容とその達成状況について
  - ②研修を施設でどのように活用していくか
  - ③今後の自分の課題

#### 8) 面接調査の実施

研修最終日に研修者、プリセプターに対して1時間程度のグループインタビュー、質問紙調査を実施した。

## VII. インタビュー結果

インタビューは、プリセプターと研修者の各グループに分かれて行った。

いずれも1時間程度のグループディスカッションを実施した。

インタビュー内容は、研修の成果報告のみに使用し、プライバシーは守られること、データの保存と管理にも万全の注意を払うことを約束した上で、内容をテープに録音した。インタビューに際しては、あらかじめインタビュー内容の項目をピックアップし、それに対して自由に回答するようにしてもらった。

## 『研修者』

第1クール5名、第2クールは3名の合計8名となった。

|   |
|---|
| <p><b>1. 研修全体を通して良かったこと・困ったこと</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・同じ特養という母体で働く看護師どうしの交流が深められてよかった。</li><li>・研修生どうしの意見交換ができてよかった。</li><li>・もう一度しっかり高齢者看護を学ぶ必要性を感じた。</li><li>・もっと実践を行いたかった。</li><li>・自分が所属する施設とシステムが異なる病院での研修だったので、すぐに生かせるかは疑問だが、いい刺激になった。</li></ul> |
| <p><b>研修目標の達成度</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・それなりに達成できたと思う。自分でも達成に近づけるよう努力につとめてきた。自分の課題にこだわりすぎていたかなという反省もある。</li><li>・研修を通してさまざまな気づきがあった。</li><li>・見学にとどまり、もっと手を出しておこないたかった部分もある。</li><li>・研修目標が自分自身あいまいだったので、十分達成できたかはわからないが、視野が広がったと思う。</li></ul>          |
| <p><b>3. 施設に戻ってから行いたいこと</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・手洗いなど基本的なところをもう一度改めて見直していきたい。</li><li>・またケアワーカーとの連携というところで、お互いの役割分担をもう少し明確にしていきたいとおもう。</li><li>・記録の統一など、連携を実際に実現させていくことについて考えていきたい。</li></ul>  |
| <p><b>4. 今後どのような研修を望むか</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・医療の現場を含めた看護の情報や技術が学べる定期的な場がほしい。</li><li>・現場での悩みや相談を受けてもらえるネットワークがほしい。</li></ul>   |
| <p><b>5. コスト、研修期間、施設について</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・研修費は5000円から10000円くらいまで</li><li>・期間は3日くらいがのぞましい。</li><li>・通勤できるのは1時間まで。それ以上の場合、旅館やホテルを紹介してほしい。</li></ul>   |

## 『プリセプター』

第1クール5名、第2クールは3名の合計8名。

## 1. 研修全体を通して良かったこと・困ったこと

### 〔1クール目〕

- ・ 研修者の研修目標があいまいで、高齢者看護に対してなにかするというより、自分の施設の業務改善をするために、当院の感染予防マニュアルや、転倒予防アセスメントシートをコピーして、手っ取り早くこちらの方法を真似しようという感じもあって、どのようにアプローチしていけばよいか迷った。
- ・ 研修生が目標を達成できたかどうかというところの評価をしていく中で、研修目標では「～を身につける」とあるが、3日間の中では身に付けたかどうかまでの確認は難しく、そこを達成してもらうためには、プリセプターとしてどのようにかかわっていけばよいか悩んだ。
- ・ 研修生の方が、実施研修という意味をどの程度把握されていたのか疑問。環境整備の一環で、シーツ交換を一緒にしませんか？と声をかけたが、「うちの施設ではケアワーカーさんがシーツ交換するので」と手を後ろにまわして見ているという場面があった。もう少し積極的に参加する必要があるのではないかと思ったが、自分よりキャリアも年齢も上の方だし、施設に帰ってもそういうことはやらないと言われれば、どこまで参加を促したらいいものか？プログラムを組んでいく上で迷った。

### 〔2クール目〕

- ・ 研修生の方とかかわることで、人にもものを教える難しさと、ほかの施設の様子を知りたい機会になった。
- ・ 研修生の目標が明確で積極的だったので、こちらも気持ちよくできた。
- ・ 自分の看護観というものを話していただいたりして、こちらが刺激を受けた。

## 2. 研修目標の達成度

### 〔1クール目〕

- ・ 研修生の達成度をどのように評価していけばいいのか、具体的な評価基準がほしいと思った。研修目標を研修生がどの程度具体的にしてきたか？によってこの研修は左右されると思う。そういう点から考えると、今回の達成度は5段階評価で2ぐらい。
- ・ 研修生さんの姿勢をみていると、すぐに答えを欲しい、なにか早く取り入れられるものをほしいという感じで、実施研修だから得られるものを本当に見ていたのか？疑問。プリセプターとしての達成度が低い。
- ・ 基礎看護技術の復習という感じで来られているような場面もあり、そういう意味での研修なら、わざわざ病院という場所を提供した研修はしなくてもいいのではないかと感じた。もし、そういった意味で行うのであれば、学校などの演習室、実習室を使用してまずはその技術を押さえてから実施にきてほしい。

### 〔2クール目〕

- ・ 研修生が事前に研修目標を具体的にたててきていて、非常に積極的に参加していた。

達成度としては5段階評価で4くらい。

- ・ 研修生さんの勤めている施設とうちの施設でシステムが異なっていたりするので、そういう意味でどれだけ研修生さんの今後に還元できるかというところでは不安が残っている。
- ・ 1クール目と同様にマニュアルとかアセスメントツールのほうに少し関心がいつているときがあった。そこらへんにどうアプローチしていくかというところで、この研修目標との関係について考えた。

### 3. 今後の改善点

- ・ 研修目標の設定をもう少し評価可能な具体レベルで主催者側で設定してほしい。
- ・ 研修者の研修目標が焦点化されるような働きかけをしてほしい
- ・ すでにプロであるナースが、今まで実施研修なのかというところを、看護部や科長、あるいは主催する先生方からスタッフに浸透するような方法を考えていてもらいたい。
- ・ 研修参加者の選択基準をもう少し明確にして、募集をかけてもらいたい。あまり臨床から離れすぎている方の場合、実施研修は無理なのではないか。
- ・ 研修で見る患者さんの記録、カルテの見方についての制限などについてオリエンテーションできるように要項に明記しておいてほしい。

### 4. 研修生の準備状態について

- ・ 研修目標を明確にしてくる
- ・ マニュアルをうつしにくる実習ではないことをもう少し理解して臨んで欲しい。

### 5. コスト、研修期間について

- ・ 費用：20000円～30000円。
- ・ 期間：3日間で妥当だと思うが、そのあと何ヶ月かしての評価研修があったほうがよいのではないだろうか。

## VIII. 研修後の質問紙調査の結果

### 1) 研修者

表1. 研修後のアンケート調査

| 評価       |   | 研修目的の達成 |        | 研修は今後の実践に<br>役立つか(研修者) | 研修は、あなたにとっ<br>て何か役立つことが<br>あったか(プリセプター) |
|----------|---|---------|--------|------------------------|---|
|          |   | 研修者     | プリセプター |                        |   |
| とてもそう思う  | 5 | 2人      | 0人     | 4人                     | 5人                                      |
|          | 4 | 4人      | 2人     | 4人                     | 3人                                      |
|          | 3 | 1人      | 3人     | 0人                     | 0人                                      |
|          | 2 | 1人      | 3人     | 0人                     | 0人                                      |
| 全くそう思わない | 1 | 0人      | 0人     | 0人                     | 0人                                      |

表2. 達成度 回答理由(研修者8名)

| 評価<br>(5段階) | 回答数 | 理由   |
|-------------|-----|--|
| 5           | 2   | <ul style="list-style-type: none"> <li>研修の課題としてあげた小項目について、病棟の中で、見学、実習、説明を受けることができ、目標5件については、今後の課題として捉えることができた。</li> <li>感染に関する考え方の違いなどを勉強したくて参加した。かなり参考になった。</li> </ul>  |
| 4           | 4   | <ul style="list-style-type: none"> <li>今現在の自分の課題、今後のホームのあり方、課題等がわかり充実した。</li> <li>日常業務をこなす中、悩んでいた、リハビリ科との違和感をどう解決に向けて改善するかヒントを得た。</li> <li>在宅に代わる施設としては学ぶことが多かった。</li> <li>看護業務の見直しを考えていたので、看護師の立場向上を考えて見直しができると思う。</li> </ul> |
| 3           | 1   | <ul style="list-style-type: none"> <li>全人的に高齢者ケアを学ぶ目標への気づきが、自分の課題に固執していたため、遅れてしまった。そのことで目標達成が不十分であった。</li> </ul>   |
| 2           | 1   | <ul style="list-style-type: none"> <li>研修したい項目がそのまま実際の目標にはならないと思った。病棟での実習が短くなったことで、はじめに挙げた3つの項目について達成度は低い。</li> </ul>  |
| 1           | 0   |  |



表3. 達成度・回答理由（プリセプター8名）

| 評価<br>(5段階) | 回答数 | 理由  |
|-------------|-----|---|
| 5           | 0   |   |
| 4           | 2   | <ul style="list-style-type: none"> <li>問題意識をお持ち、行動に移していた。漠然とした実施ではなく、明確な目的があるからこそ、明確な行動になると思う。</li> <li>この研修の目標と、研修生の目標が一致していた。研修生の言葉や態度の中に、患者を全体的にとらえるや、アセスメントしていくなどということが、現れていた。</li> </ul>   |
| 3           | 3   | <ul style="list-style-type: none"> <li>主催者側が意図するねらいと、研修者側のねらいや目標にずれが生じている事が問題。受け入れ側の私自身も意図するものが見えないまま終えてしまったと思う。</li> <li>対象（研修者）の方の希望された項目に、どれだけそう事ができたか、自分では、不安が残る。</li> <li>今回の研修は、高齢者を全体的に看る能力を身につけるといふものであったが、各論に研修者がこだわってしまっているところがあった。実際に病棟で処置等見学している時も実際にホームで行っている方法を、当院のやり方を見て再認識したいという様子がみられた。本当に今回の研修目標を熟読し、理解しているのか疑問に感じる。</li> </ul> |
| 2           | 3   | <ul style="list-style-type: none"> <li>事前に今回の研修の趣旨である高齢者ケアという内容をしっかり把握できていなかった。研修者と何をやるかを、わかるまで話し合いを持つべきだった。</li> <li>最終日に、本当の目的に気づかれたとのことでしたので、達成できたかどうかは判断つきません。</li> <li>研修者はもっと具体的な部分を知りたかったのでは実際ホームで困っていることを具体的にききたかったのではと、コミュニケーションをしながら感じました。</li> </ul>   |
| 1           | 0   |   |

表4. 実践に役立つか 回答理由（研修者8名）

| 評価<br>(5段階) | 回答数 | 理由  |
|-------------|-----|---|
| 5           | 4   | <ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者看護を改めて勉強できる場がある事で（確認しながら）必要な内容を、スキルアップできる。安心してケアに臨める。</li> <li>一方的な視点から、問題をとらえている事が多かった事に改めて</li> </ul> |

|   |   |  |
|---|---|--|
|   |   | <p>気づかされた。共通する問題に、どの様に取り組んでいるか（姿勢）が見えて、勉強の必要性と職場への提言の必要性や仕方などが学べた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 色々、見たこと、聞いた事、実際に体験した事、すべての今回の経験は施設で役立つと思う。</li> <li>・ 手洗いの重要性を指導していきたい。施設で行っている消毒方法の簡素化や患者さんの名前の問題（手首に名前のついたリボンをつける）など実行していきたい。</li> </ul>   |
| 4 | 4 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 看護技術、判断能力の確認ができてよかったです。意志、看護師、介護、PT、OT、STのかかわり方が勉強になりました。</li> <li>・ 研修内容を施設の中で活用するために、条件に合わせて変化させなければならないし、スタッフ間の共通認識を得る必要があると思われます。</li> <li>・ 本来の目的ではない部分で得たことが多かったように思う。与えられた仕事をこなすことに専念する毎日であったが、行っていることがどういう意味をなしているか考えてみることを、行き詰まった時、原点に戻ることを気づかせてもらったことを伝えていきたい。</li> <li>・ スタッフが共に患者様に向き合って実践していることが励みになった。</li> </ul> |
| 3 | 0 |  |
| 2 | 0 |  |
| 1 | 0 |  |

表5. 実践に役立つか 回答理由（プリセプター8名）

| 評価<br>(5段階) | 回答数 | 理 由   |
|-------------|-----|---|
| 5           | 5   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分自身、今の看護に求められているものがよくわかった。自分自身、まだまだ勉強不足と感じ、もっといろいろ学んでいきたいと思った。</li> <li>・ 私も勉強になった。経験が、私より10年以上もある方のいわれる事は、とても得るものが多かった。指導という面での難しさを、実感できるいい機会だった。</li> <li>・ 自分の看護についても、振り返る機会になった。看護と介護の協働について話合う時間があつた事は、良かった。</li> <li>・ ホームでの看護の立場がわかった。そして、ホームで看護師とし</li> </ul> |

|   |   |   |
|---|---|---|
|   |   | <p>て働くのは恐いと感じた。観察力、判断力、スキルが今以上に必要だから終末期ケアを行う中で、施設の考え方、やり方など聞くことができてよかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護職との連携という部分では、私自身も日頃から悩んでいる所でもあり、今のこの状況はまだまだ良い方向へ変えることができると気づかされた。</li> </ul>  |
| 4 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者を見るには、全人的にその人を見て、知識、技術も色々必要で、そして、アセスメント能力を、十分身につける必要があると再認識した。</li> <li>・ 自分が人に指導するという事で、何を考えて毎日業務しなければいけないかを改めて知る事になり良かったと思う。ただ研修者の思いが、どこにあるのかがわかって主催者側の意向にそってないと思い迷ってしまった。</li> <li>・ 指導者としての心構えや自分の看護観を学んだつもりだが、なんとなくしか持っていなかったことに気づかされた。看護師としての未熟さを知っただけでも、十分勉強になった。</li> </ul> |
| 3 | 0 |   |
| 2 | 0 |   |
| 1 | 0 |   |

表6. 意見・感想 (研修者)

| 項目     | 内容  |
|--------|---|
| 研修の準備  |   |
| 研修方法   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ プリセプターがついてくれて、心強く、またためになった。</li> <li>・ 有意義だった。プリセプターの方が100%対応してくれた。</li> </ul>   |
| ネットワーク | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特養でも違いあり、また同じ悩みを持つことがわかり、話しをすることができてよかった。</li> </ul>   |
| 要望     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ もう少し長い時間現場で学びたい。</li> <li>・ 病院の実習はとても魅力的だった。これからも実習を取り入れた研修をしていただきたい。</li> <li>・ 今回のような研修を定期的を開いてほしい。</li> </ul>                         |
| その他    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ スタッフの意欲、意識について実習病院は質が高いと思った。</li> <li>・ 看護と介護の協働についてディスカッションして改めてその重要性を再認識した。</li> <li>・ 自分の勉強不足を思い知らされた。今後の課題に気づいたことに感動している。</li> </ul> |

|  |  |
|--|--|
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>自分が目先の現象にこだわり、大局的に物事を考えていなかったか気づいた。自分にとって不足している部分の勉強をしたいと思う。</li> </ul> |
|--|--|

表6. 意見・感想（プリセプター）

| 項目     | 内容   |
|--------|--|
| 研修の準備  | <ul style="list-style-type: none"> <li>研修の目的、目標を研修者がどれだけ理解しているのか、事前に確認する方法があるといい。研修への動機づけが難しいと感じた。</li> <li>研修の目的、研修生について病棟のスタッフへも浸透させておいたほうがよい。</li> <li>自分も研修内容を理解していなかったと思う。最初に先生方の話しを聞けばよかった。</li> <li>研修生を受け入れる側として、病院全体（看護部）や病棟スタッフに研修の目的、目標をよく理解してもらいたい。片手間に研修生を受け入れるのは失礼だと思う。</li> </ul> |
| 研修方法   | <ul style="list-style-type: none"> <li>実習内容も広く浅くするのではなく、1人の患者や1つの関わりについてじっくりと考えていくというようにした方が、看護の質的向上につながると思う。</li> </ul>   |
| ネットワーク |  |
| 要望     |  |
| その他    | <ul style="list-style-type: none"> <li>研修生たちが少しでも気づける部分や先の見方が変化できていればいいと思う。</li> <li>これを機に次回このような機会があったら、研修者の心に響く看護を展開させていきたいと思う。</li> <li>キャリアや立場のある方にどのように接したらいいのか悩んだ。どこまで見せたらいいのか、やってもらったらいいのか考えてしまった。こういう機会のマネジメントの難しさも反省としてある。</li> </ul>   |

表7. 研修2ヵ月後のアンケート調査（研修者）

|                       | はい | いいえ | その他 | 未回答 |
|-----------------------|----|-----|-----|-----|
| 研修で得たことを職場の方に伝えたか     | 7  | 0   |     | 1   |
| 研修後、業務実践に変化はあったか      | 5  | 2   |     | 1   |
| 今回のような病院／施設研修は有効だと思うか | 6  | 0   | 1   | 1   |

表8. 研修後、業務実践に変化があったか 回答理由 (研修生)

| 評価  | 回答数 | 理由   |
|-----|-----|--|
| はい  | 5   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 分からないこと、知らないことを積極的に調べて学んでいこうとする姿勢。</li> <li>・ 事例に取り組むことで、施設の方針は方針として自分達が担うべき課題がたくさんあることに視点を当てた。実践する中でホームドクターとの情報交換、看護の専門性と介護の専門性、重なる部分、窓口となる相談員との連携、家族を巻き込んでの説明と了解を得ることで確実に変化してきた。自分の役割として朝の全員の朝礼で、事例の報告、看護ケア、介護の協働の点について伝達し全員で共有できるよう働きかけた。</li> <li>・ 具体的に実践面に変化はないが、業務の組み立て方、考え方に影響があったと思う。チームプレイでの実践にはもう少し積み重ねが必要と感じる。</li> <li>・ 今まで、こうしたほうが良いと思ってもあまりはっきり主張しなかった事も、研修で知り合った他施設のスタッフも同じように悩み考えているという事が励みになり、主張する事ができてきたと感じている。実際には具体的にどこがどう変わったとはいえないものの、スタッフの意識が以前より変わっているのではと感じる。</li> <li>・ (研修者の働く施設では) 今までは看護師だけの手順書だったが、ワーカーさんに依頼する看護職の仕事、検温、血圧測定、状態観察の仕方など本当は看護職の仕事であった事に気がついた。これからはこれらの手順書も作り、ワーカーさんとの関係をもっと密接なものにしていき、利用者さんの健康に注意していきたいと思っている。</li> </ul> |
| いいえ | 2   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護職の方がどのような視点(生活や本人の快適さなど)で考え、行動に結び付けているかが分かり、話し合う上でも理解しやすくなった。しかし現在は職種が変わってしまったため(CM)、実践上では今後訪問ヘルパーさんなどと話す時(担当者会議など)に生かしたい。</li> <li>・ 福祉施設の医務室の立場はまだまだ介護職員の一人と見られている部分が多く、看護師が研修してきてもそれはそれで、現場につながらない場合が多い。</li> </ul>  |

表9. 研修に関して気づいたこと、感想（研修生）

|               |  |
|---------------|--|
| <p>研修の成果</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 短い研修期間の中で、自分のこれについて学びたいという目標が達成できるのは難しいかもしれないが、今後自分がどうすべきなのかという気づきを学べたことはとても有意義だった。</li> <li>・ 医療の現場を離れているので、業務の一つ一つを確認（項目は少なかったが）できた事は有意義だった。</li> </ul>   |
| <p>研修への要望</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療の場での研修も良いが、同じような施設での研修も現実と今後の課題が見えて良いのではと思う。</li> <li>・ 福祉や介護保険制度がこれからもどんどん変わっていく中で、現場で行っている事が求められている事なのか、正しい方向に進めているのかを判断するのが難しくなっている。サービスに関しても内容を充実させるためにも、他の施設に研修に入り、互いに情報交換したり勉強できる場を提供していただけたらと思う。</li> <li>・ 積み重ねのために前期と後期の二段に分けていただけたらよかった事と、参加者同士の交流の場がもっと欲しいと思った。</li> <li>・ できれば他の施設見学、看取りの時の家族の方達への接し方（を見たい）。</li> </ul> |
| <p>その他</p>    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修というと教える人、教えられる人になりがちだが、今回はあまり感じることなく同じ看護者として意見交換ができて楽しかった。</li> <li>・ とてもためになる研修だった。個人的には非常に良かったと思っているが、特養ホームにとってはどうかは、正直なところ疑問が残る。少し遠く時間も延長で勉強させて頂いて、毎日の通いはキツかった。</li> </ul>   |

表10. 研修2ヵ月後のアンケート調査（管理者）

|                       | はい | いいえ | その他 | 未回答 |
|-----------------------|----|-----|-----|-----|
| 期待した研修の成果はあったか        | 2  | 2   | 1   | 3   |
| 今回のような病院／施設研修は有効だと思うか | 6  | 0   | 0   | 2   |

表 11. 研修にどのようなことを期待してスタッフを研修に出したか（管理者）



表 12. 期待した研修の成果はあったか（管理者）

| 評価   | 回答数 | 理由   |
|------|-----|--|
| あった  | 2   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 看護方法について当施設との比較が出来た。</li> <li>・ 研修を終えすぐに職員全体に返し、先方での施設の良いところや当院ではまだ不定の部分などを明確に伝達し、フィードバックしてくれた。広い見方となってきたように思う。</li> </ul>                              |
| なかった | 2   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修での話はあるが積極的に自分から実行する事は無かった。</li> </ul>   |
| その他  | 2   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新規ホーム開設もあり看護体制の移動など重なる期間でもあったため、成果について「あった」「なかった」の判断がつかねる状況である。看護師内の研修後の勉強には役立った事は事実である。</li> <li>・ 研修終了後まだ期間が短いので具体的にはみられないが、真摯に業務に取り組んでいる。</li> </ul> |

表 13. 気づいたこと、意見、感想

|           |  |
|-----------|--|
| 研究への期待、要望 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大変勉強になったと（本人が）言っている。今後も継続して行われることを願う。</li> <li>・ 今後は回数を増やしても良いと思う。</li> </ul> |
|-----------|--|

|  |   |
|--|---|
|  | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 研修の結果はすぐには現れないが、参加者が自分自身のアイデンティティに気付き、高齢者ケアの今後について考えてくれる機会になればと思っている。時々このような形で充電する事ができれば、本人にとってもプラスになってゆくと思われる。</li></ul> |
|--|---|



## 研修参加にあたってのご説明

### 1. 患者・家族への倫理的配慮

研修者は看護職としての倫理を遵守しながら研修を行います。

### 2. 研修者への倫理的配慮

本実地研修は、看護職の専門的スキルを習得することによって、施設における高齢者ケアの質的向上を目指すものです。

本実地研修は、厚生労働科学研究費補助金（医療技術評価総合研究事業）の助成を受けて行なう研究の一部であり、以下の資料は事業評価として研究に活用されます。その際は、個人や施設名が特定されることのないように配慮し、研修者から了解がいただけない場合でも本実地研修の参加には何ら支障がないことを保証します。

#### 事業評価活用資料

- ・レポート
- ・アンケート調査
- ・グループディスカッションの内容

研究代表者

中村 恵子 殿

## 承 諾 書

「介護保険施設看護職の教育・研修プログラムの普及拡大並びに看護管理者育成・支援モデルの開発」（平成 15 年度厚生科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業）の一環として実施される「高齢者ケアスキルアップ研修」へ別紙に示された内容で説明を受けました。

説明内容を遵守して参加し、資料を提供することに承諾します。

説明内容を遵守して参加しますが、資料として提供することには承諾しません。

平成 年 月 日

氏名 \_\_\_\_\_ 印

高齢者ケアスキルアップ研修後のアンケート 氏名( )  
研修者用 施設名( )

以下の質問に対して1～5の回答のうち最もあてはまる番号に○印をつけて下さい。

Q1. 研修の目的は、達成できましたか。

とてもそう思う 全くそう思わない  
5 4 3 2 1

その番号に○印をつけた理由をご記入ください。

[ ]

Q2. 研修は、今後のあなたの実践に役立つと思いますか。

とてもそう思う 全くそう思わない  
5 4 3 2 1

その番号に○印をつけた理由をご記入ください。

[ ]

Q3. 全般的に研修に関して気づいたこと、感想、意見などあれば、自由にお書き下さい。

[ ]

ご協力ありがとうございました。

高齢者ケアスキルアップ研修後のアンケート 氏名( )

指導者用

以下の質問に対して1～5の回答のうち最もあてはまる番号に○印をつけて下さい。

Q1. 研修者は、研修の目的を、達成できましたと思いますか。

とてもそう思う 5 4 3 2 1 全くそう思わない

その番号に○印をつけた理由をご記入ください。

[ ]

Q2. この研修は、あなたにとって何か役立つことができましたか。

とてもそう思う 5 4 3 2 1 全くそう思わない

その番号に○印をつけた理由をご記入ください。

[ ]

Q3. 研修を担当して、良かったこと、困ったこと、気づいたこと、感想、意見などあれば、自由にお書き下さい。

[ ]

ご協力ありがとうございました。